

疑問詞＋crois-tu que P?の叙法選択

井上 大輔

(上智大学大学院)

フランス語の接続法に関しては、先行研究の多くが、主張／非主張、または前提／非前提という観点から説明を試みている。例えば(1)であれば、主節を *ne pas* で否定しても *que* 以下の内容が変化しないことから、*que* 以下は前提、または非主張なので接続法が用いられているということになる。

(1) Je suis heureux que vous ayez réussi.

こうした視点から接続法と直説法の用法を説明するアプローチでは説明できないと思われるのが、*Pourquoi crois-tu que P?*における叙法選択である。*Pourquoi crois-tu que P?*においては、(2)のように *pourquoi* が *crois* にかかる場合は直説法が用いられ、それに対して(3)や(4)のように *pourquoi* が *P* にかかる時は直説法と接続法が両方用いられることがわかっている。

(2) Pourquoi crois-tu que je suis très intelligent ?

(3) Pourquoi croyez-vous que je sois là ?

(4) Pourquoi croyez-vous que je me suis déplacé jusqu'ici ?

このうち、(2)と(3)においては *que* 以下の情報が疑問の焦点になっているかいないかという立場から、従来の学説で証明できる。しかし、(4)では *que* 以下が疑問の焦点になっていないにもかかわらず、直説法が使われている。故に、今までの説明を当てはめることができない。こうした矛盾を説明するために、ここでは話者が聞き手の情報処理に対して推量を行い、聴手の注意を換気するために直説法が用いられているという仮説を立て、その用例がフランテキストで発見される他の *Pourquoi crois-tu que P?*、並びにそれ以外の疑問詞を用いた構文にも当てはまるかを確認するのが、本発表の趣旨である。